

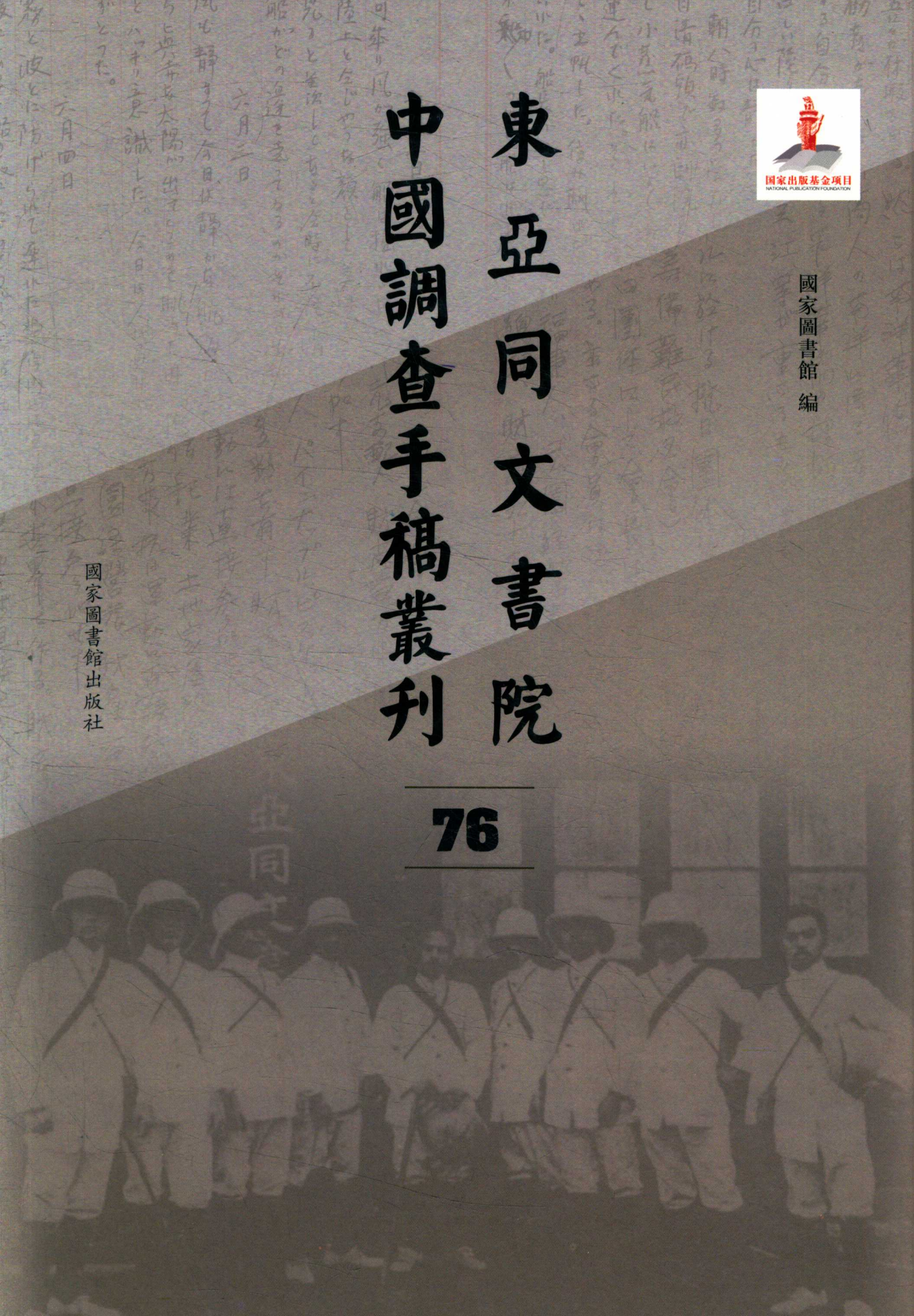


國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

76

國家圖書館出版社





國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

76

國家圖書館出版社

第七六册

支那研究部昭和十二年度研究旅行旅行日誌	林哲夫	一
研究旅行日誌	福田勝藏	五三
「研究旅行日誌」	太田英一	五九
指導旅行日誌	戸田義郎	一一一
學生調査旅行指導旅行日記	内田直作	一六一
大旅行指導旅行日誌報告	上田信三	二〇一
大旅行指導調査旅行日誌	林哲夫	二三一
學生調査指導旅行日記	馬場鋤太郎	二五三
指導旅行日誌	坂本一郎	二九五
研究指導旅行日誌	福田省三	三一
指導旅行日誌	宮下忠雄	三二九
研究旅行日誌		三三七

旅行日誌	太田英一	三五三
研究旅行日誌	熊野正平	三七三
夏季研究旅行日誌	戸田義郎	三八一
南京、蘇州指導旅行日記	成宮嘉造	四六七
指導旅行報告	宮下忠雄	四七九
旅行日誌	中内二郎	五二五
昭和十六年夏北支方面旅行日誌	久重福三郎	五三三
臨時研究旅行日誌	飛石初次	五七一
南京、蘇州研究旅行日誌	原一郎	五七九
指導旅行日誌	神谷龍男	五九三
滿洲視察旅行日誌	小岩井淨	六一一
指導旅行日誌	北野大吉	六四三
研究旅行日誌	若江得行	六五一

大内

支那研究部

昭和十二年度研究旅行

旅行日誌

林哲夫



(7)

研究旅行日誌

教授

林

哲

夫

七月一日

木曜日

午前八時廿五分上海北站発。北支方面へ研究旅行サル、本院教授福田勝藏氏ト同伴。同氏トハ漢口マデ行動ヲ共ニスルコト、ナル。

蘇州ニ下車。直々ニ日本領事館ニ至リ、主任市川修三氏、歡待ヲ受ク。蘇州領事館ハ南京總

領事館ノ分館ト組織変更サレタル由。

午前十一時ヨリ領事館警察署長眞藤眞美治氏

ヨリ蘇州事情ニ関シ種々話ヲ聞キ資料ヲ蒐集ス

午後今警察署巡查安藤竹次郎氏ノ案内ニテ

寒山寺、西園戒幢律寺、農学校、虎丘、北寺、

獅子林等ヲ見物ス。領事館ニテ夕食ノ饗應ヲ受

ケ入浴ヲ済マセ。門外ノ利昌新旅舎ニ投宿。

蘇州ニテハ、軍事教練ノ猛烈ナルニ一瞥ヲ咲

ス。時恰モ保甲長ノ教練査閲アリ。所中軍國色

ニ塗リツバサル。軍人ノ教練ハモトヨリ、学生

(2)

一般青年、軍事訓練猛烈ニ行ハル。寒山寺ニ伺
フ途中、約一個中隊、支那兵が純然タル日本、剣
道ノ猛練ヲ行ヒツ、アルヲ見テ、軍事訓練ノ目
的が奈辺ニ存スルカヲ思ヒ、支那ノ抗日意識ニ
大ナル注意ヲ拂フ必要ヲ再認識ス。

七月二日

金曜日

午前十時十分蘇州發、汽車ニテ南京ニ向フ。
南京ニ於テハ停車場ニ憲兵頑張り、一々旅具模
査ヲナシ、而モ其ノ態度ノ嚴重ナルニ驚ク、宿

南京ハ軍都ノ感アリ、市中行人ノ半ハ軍人ヲ	止ムヲ得ズ下関、 日本旅館 寶来館ニ投宿。	何ニ日本人ニ對シ神經ヲ失フセテ斗ルカヲ知ル	故ニ絶テ、南京入京第一歩ヨリ、支那人が如	テ各方面ニ宿屋ノ件交渉センモ、日本人ナルガ	大使館ニ到リ、中田豐千代氏ニ依頼シ、電話ニ	レノ一言ニ投宿ヲ拒絶サル。致シ方モナク日本	ニ安樂飯店ニ行ク。此處デハ「外國人ハ泊メヌ	タネバ部屋ノ明カヌ由ヲ知リ、散テ、マ、	ニツカントシテ最初中央飯店ニ到ル。五時近待
----------------------	--------------------------------------	-----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	-----------------------

(3)

以テ占ム。日本人全体ハ蒋介石ノ張リ廻シタル
スパイ網ノ中ニ監視付ノ不快ナル生活ヲ覺ミツ
ツアリ。

七月三日

土曜日

午前八時半大使館ニ行キ、清水董三氏ノ紹介
狀ヲ得テ、教育部ニ馬秘書長ヲ訪問、宗教行政
ノ件ニ関シ種々質問ス。支那ニ於テハ宗教ハ内
政部ノ礼俗司ノ管轄ナル由ニテ、教育部ニ於テ
ハ要領ヲ得ズ、直々ニ大使館ニ引キ返し、内政

部黃氏宛紹介狀ヲ得。訪問前、電話ニテ交渉シ
 テ貰フ。其ノ結果時向ノ無キ事ト、禮俗司ハア
 ルニハアルカ仕事ハ孔子廟ノ修理位ナモノデ他
 ニハ何等ノ資料モナキ由、依テ訪問ヲ見合ハス
 スト、スル。
 支那ノ役所ハ非常ニ綺麗ニ整頓サレ、所謂新
 生活運動實施ノ結果執務振リ又改善セリ、昔
 日ノ馬々虎々ノ處影ヲ潜ム。
 晝ハ大使館ノ中田氏ノ招待ヲ受ケ國際聯歡社
 ニテ晝食ヲナス。目下南京ニ於テヤン人ノ出来

(4)

ル所ハコノ國際聯歡社ト独逸俱樂部トノ二ヶ所
ノミノ由。

午後四時半國立中央大學經濟學部長吳貞愷君
旅館ニ來訪。共ニ南京基督教青年會總主事ケオ
ーケ、フイツチ君ヲ訪問。南京ニ於ケル基督教
最近ノ傾向ニ關シ意見ヲ戦ハス。後吳君ノ案内
ニテ中華門外馬祥興ニテ夕食ヲ認メ、夜ノ南京
ヲ見物ス。都市計畫モ新生活運動モ表面的現象
ニ過ギサルコトヲ痛感ス。

中央大學經濟學教授朱君ト會談十一時半マデ

南京各方面ノ情勢ヲ聞ク。

七月四日

日曜日

清水董三氏ノ御配慮ニヨリ、折カニ南京滞在
中ノ鈴木擇郎教授ト共ニ大使館ノ自動車ヲ使用
サセテ頂キ渡部巡查ノ案内ニテ、明孝陵・中山
陵・陣没將士記念塔・漂近園ノ墓等ヲ歴訪シ、
市立運動場ヲ一周シテ清水公館ニ帰り晝食ノ饗
應ヲ受ク、晝頃到着ノ翌チアツタ日清汽船ノ瑞
陽丸カ午後九時ニ延着ノ報アリ。福田教授ト共

(5)

ニ北京へ向ケ出發ノ鈴木教授ヲ浦口マデ見送ル

午後十時瑞陽丸ニテ南京發。

南京ニ於ケルイン・テリ・層ハ宗教ニハ無関心ノ

如ク見受ケウル。明孝陵、中山陵等ニ参詣スル

中國人ノ態度ハ單ニ見物ノ態度ノミ。礼教ヲ喧

シク云フ南京政府ノ御勝元ニ於ケル孔子廟ノ如

キモ荒廢ノ感アリ。

七月五日

月曜日

一日中船中ニ在リ、蒸シ暑クテ開口スル。場

子江ノ濁流ハ物凄ク増水シテ兩岸ヲ没入。流シ
又急ニシテ時速四哩ノ由。安徽省ノ首府安慶ヲ
過ケル頃ヨリ微風が出ル。

七月六日

火曜日

午前十時九江着。九江領事白井康、鉄道部南
海鐵路管理局顧問坂田九郎、朱、東西興業会社
高比良勝二、日清汽船小澤ノ諸氏ノ招待ニ預リ
日本人俱樂部ニテ昼食ノ饗應ヲ受リ。學生原田
秋本ノ二君偕然来リ會食ス。